

## 2021年3月期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2021年3月期決算説明資料

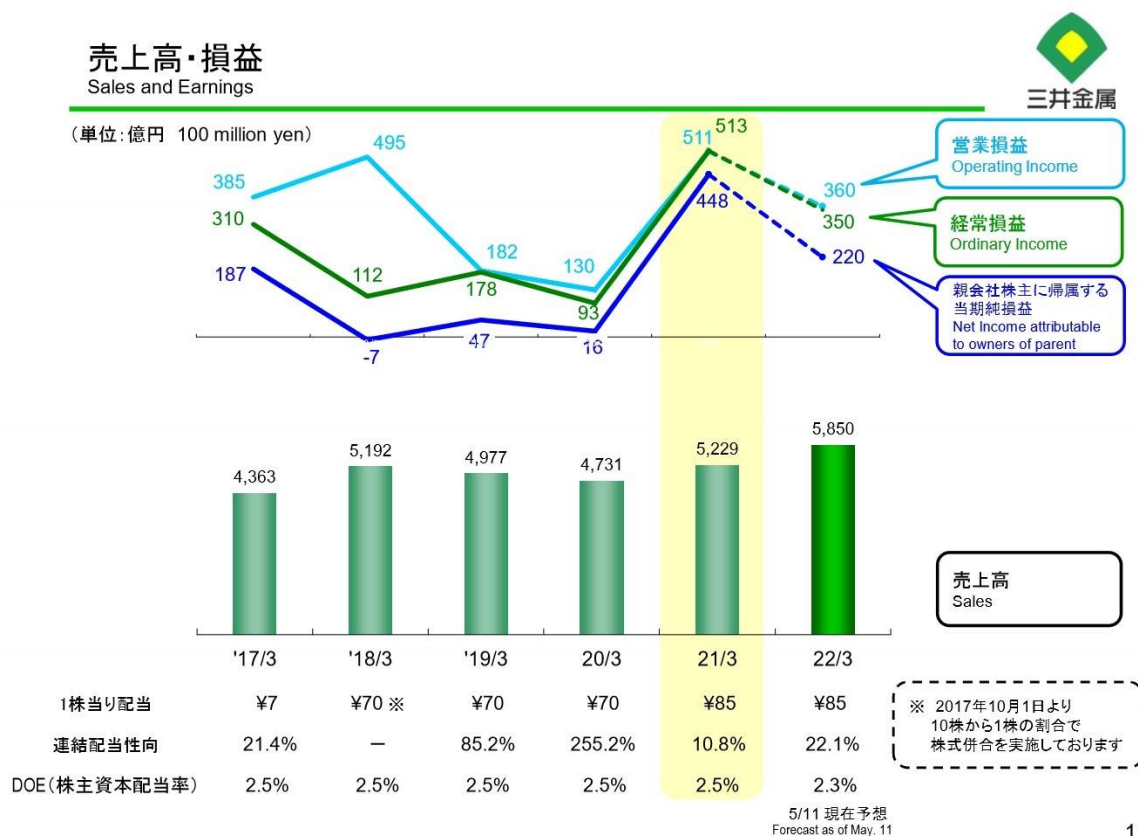
[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=CSaGv2bsxSk%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=CSaGv2bsxSk%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=CSaGv2bsxSk%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

### ■ご説明



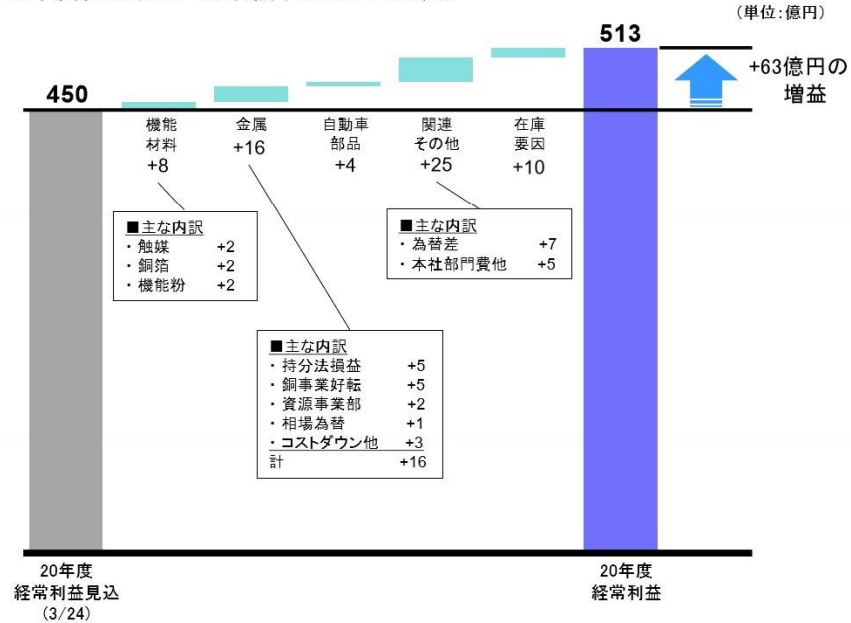
決算説明資料1ページをご覧ください。

・2021年3月期の売上高は5,229億円、営業利益は511億円、経常利益は513億円、親会社株主に帰属する当期純利益は448億円となりました。

・対前年度実績比較では、売上高498億円の増収、営業利益381億円、経常利益419億円、親会社に帰属する当期純利益432億円、それぞれ増益となりました。

20年度経常利益は3/24公表値から63億円増加の513億円となった

20年度経常利益 対業績予想(3/24公表)

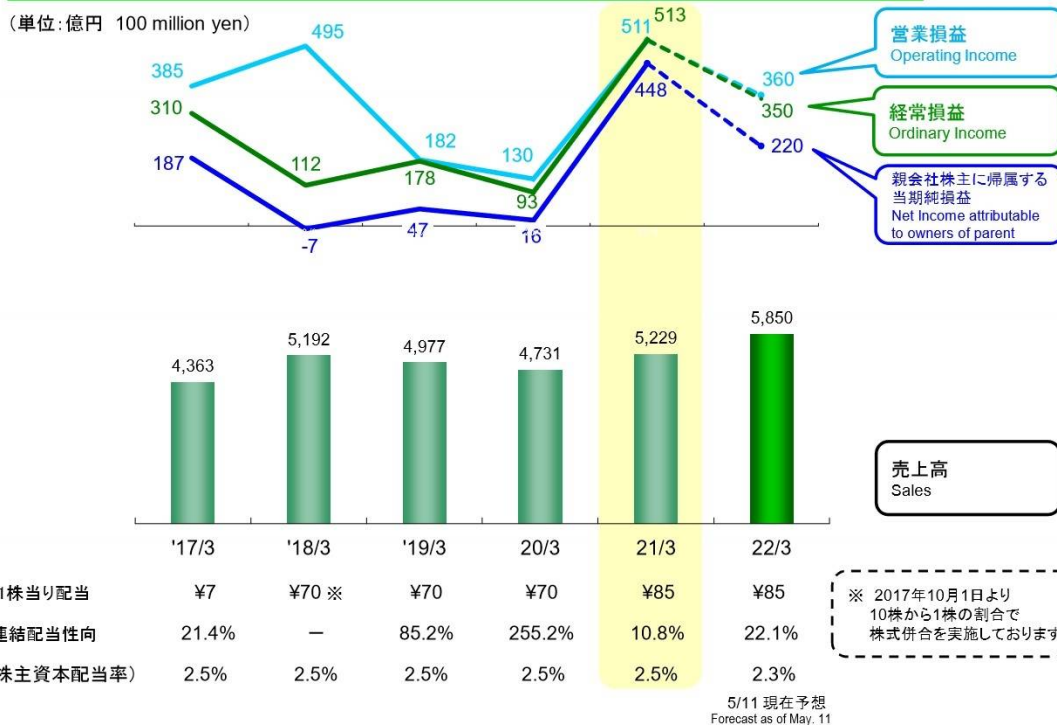


経常利益に関し、3月24日に公表いたしました2020年度通期業績予想との対比について、資料2ページをご覧ください。

・450億円の予想から513億円となり、63億円の増益となりました。

・セグメント別には、機能材料で8億円の増益、これは触媒・銅箔・機能性粉体において販売数量が上振れしたことが主な要因です。金属では16億円の増益となりました。硫酸単価が改善したこと等により持分法損益が好転したことや、銅製錬事業における採収率が改善したことがその要因です。関連その他につきましては、円安により海外子会社向けの貸付金の為替差がでたことや、PBO(退職給付債務)がプラスサイドに出たことなどにより25億円の好転となりました

## 売上高・損益 Sales and Earnings



続いて2021年度の業績予想についてご説明いたします。もう一度資料の1ページをご覧ください。

・2022年3月期の売上高は5,850億円、営業利益は360億円、経常利益は350億円、親会社株主に帰属する当期純利益は220億円と予想しています。

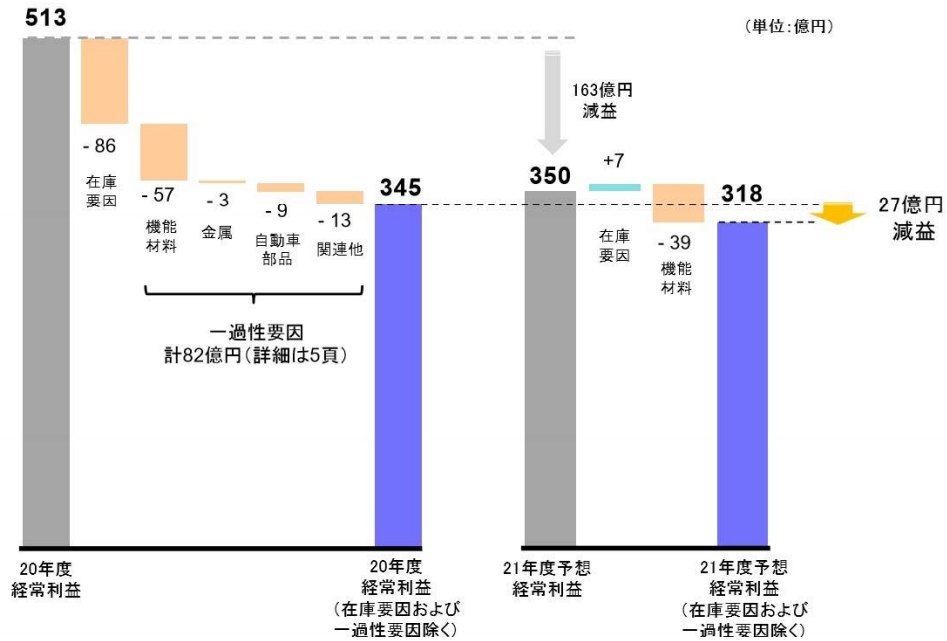
・対前年度実績比較では、売上高は621億円の増収を見込んでおりますが、営業利益、経常利益、親会社に帰属する当期純利益ともに減益を見込んでおります。減益となる理由については3ページ以降でご説明いたします。

## 在庫要因および一過性要因除く経常利益

Ordinary Income Forecast excluding inventory factors and transient factors



21年度予想経常利益は対前年度163億円の減益だが、在庫要因および一過性要因を除くと27億円の減益



3

資料の3ページをご覧ください。ここでは経常利益にどの程度の一過性要因が含まれているかについて記載しております。

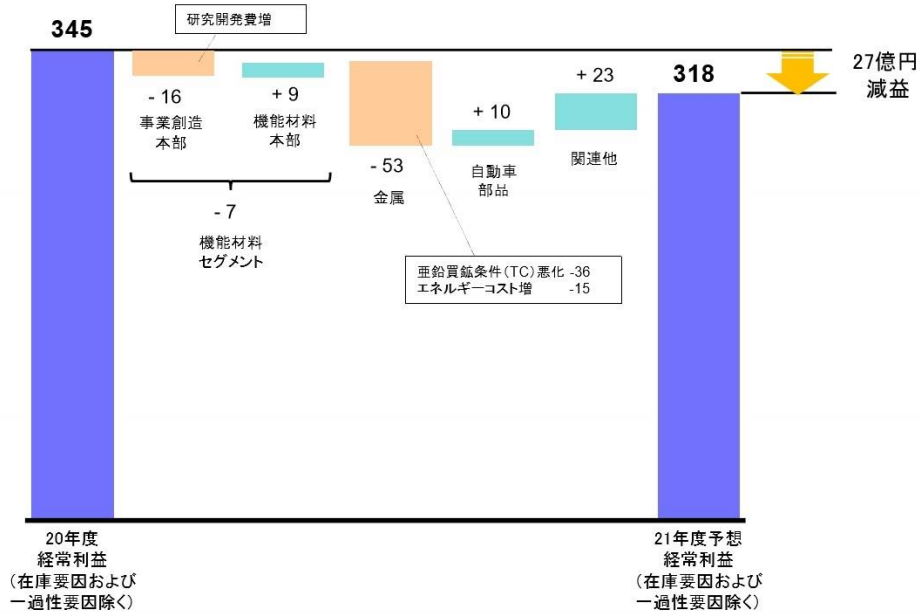
・2021年度の経常利益は350億円と、2020年度の513億円に比べ163億円の減益を予想しておりますが、2020年度の513億円には在庫要因による86億円のプラス効果、およびその他の一過性要因が82億円含まれており、それらを除くと345億円となります。

・2021年度の経常利益予想350億円からも、同様に一過性要因を除くと318億円となり、2020年度からの実質的な減益幅は27億円となります。

21年度予想経常利益見込(在庫要因および一過性要因除く)  
 FY 2021 Ordinary Income Forecast excluding inventory factors and transient factors



銅箔、触媒、車載向け製品などは対20年度増販を見込む。買鉱条件の悪化やエネルギーコストの増加が減益要因だが、将来に向けた積極的な開発投資は継続する



続きまして、その27億円の減益についてご説明いたします。資料の4ページをご覧ください。

・グラフの中で水色で示しておりますとおり、銅箔や触媒、車載向け製品などについて、2021年度は前期比増販を見込んでおり、これらは増益要因となっておりますが、一方で、亜鉛の買鉱条件(TC)のベンチマークが大幅に悪化することやコークスをはじめとするエネルギーコストの上昇等によるマイナスサイドの影響が大きく、金属セグメントで53億円の減益を予想しております。

・また、将来に向けた研究開発への投資は引き続き積極的に取り組むべく事業創造本部の費用は16億円増加させます。

・これらの要因を合わせて、トータルでは減益と予想しています。

・配当につきましては、これまで1株当たり80円と公表しておりましたが、DOE2.5%の水準である1株当たり85円とし、6月29日の株主総会議案として上程する予定です。また、2021年度の配当予想についても85円としております。

・昨年度カセロネス銅鉱山の権益を譲渡したこと等により、収益のボラティリティは下がっているという認識であり、今後は、当社が得意とする事業領域に注力し、継続的に85円以上の配当が行える企業体質に変革してまいります。

## 損益計算書 Statements of income



(単位: 億円 100 million yen)

	実績 Results			予想 Forecast			
	2020	2019	増減 Difference	2021 今回予想 Forecast	増減 Difference	上期 1st Half	下期 2nd Half
売上高 Net Sales	5,229	4,731	498 10.5%	5,850	621 11.9%	2,850	3,000
売上原価 Cost of sales	4,207	4,035	173 4.3%	-	-	-	-
売上総利益 Gross Profit	1,022	696	326 46.8%	-	-	-	-
販売費・管理費 SG&A expenses	511	566	-55 -9.7%	-	-	-	-
営業利益 Operating Income	511	130	381 292.2%	360	-151 -29.6%	195	165
営業外収支 Non-operating income/expenses-net	1	-37	39	-10	-11	-5	-5
経常利益 Ordinary Income	513	93	419 450.2%	350	-163 -31.7%	190	160
特別損益 Extraordinary profit/losses-net	34	-35	70	-22	-56	-14	-8
税引前利益 Net Income before income taxes	547	58	489 844.3%	328	-219 -40.0%	176	152
税金費用・非支配株主帰属損益 Income taxes & minority interests	99	42	57	108	9	46	62
親会社株主に帰属する 当期純利益 Net income attributable to owners of parent	448	16	432 2758.6%	220	-228 -50.9%	130	90

6

資料6ページの「損益計算書」をご覧ください。

・2020年度の経常利益は513億円となり、対前年比419億円の増益となりました。増益要因については後程、セグメント毎にご説明いたします。次に特別損益ですが、対前年比70億円の好転となりました。

## 営業外・特別損益

Non-operating income/expenses and Extraordinary gains/losses



(単位: 億円 100 million yen)

	実績 Results			予想 Forecast			
	2020	2019	増減 Difference	2021 今回予想 Forecast	増減 Difference	上期 1st Half	下期 2nd Half
金利収支 Interest income - net	-14	-13	-1	-18	-4	-9	-9
受取配当金 Dividend income - net	28	12	17	5	-23	5	0
持分法投資損益 Equity in gains/losses	-17	-14	-2	-2	15	-3	1
為替差損益 Forex Exchange gain or loss	10	-22	33	0	-10	0	0
その他 Others	-7	1	-7	4	11	2	2
営業外損益 計 Non-operating income/expenses	1	-37	39	-10	-11	-5	-5
固定資産除売却 Loss on sale & disposal of Fixed Asset	61	-21	82	-14	-75	-11	-3
有価証券売却損益 PL on Sale of Investment Securities	231	-8	239	0	-231	0	0
災害損失 Disaster losses	-4	-1	-2	0	4	0	0
受取保険金 Insurance Proceeds	5	5	0	0	-5	0	0
銅鉱山権益譲渡損失 Loss on Transfer of interest in the Copper Mine	-205	0	-205	0	205	0	0
その他 Others	-54	-10	-45	-7	47	-3	-5
特別損益 計 Extraordinary profit/losses - net	34	-35	70	-22	-56	-14	-8

9

その要因については資料9ページをご覧ください。下段が特別損益の内訳です。

•まず、上から5行目の銅鉱山権益譲渡損失マイナス205億円ですが、これはカセロネス銅鉱山の権益譲渡に伴う損失です。一方、収益サイドとしましては、1行目の「固定資産除売却」で61億円のプラスとなりました。これは大崎本社フロア売却および品川区の研修施設売却に伴う利益計上がその主な要因です。2行目の「有価証券売却損益」は231億円のプラスとなりました。こちらは銅事業再編によるJX金属製錬株式売却の影響とコジャワシ銅鉱山の権益譲渡の影響によるものです。

•プラスサイドもマイナスサイドもございましたが、いずれも2020年度に進めてきた保有資産の見直し、効率化の結果がここに反映されています。

## 持分法損益 Equity gains or losses



(単位: 億円 100 million yen)

	2019							2020							2021 予想				
	Q1	Q2	上期 1st H	Q3	Q4	下期 2nd H	FY 2019	Q1	Q2	上期 1st H	Q3	Q4	下期 2nd H	FY 2020	FY 2020 見込 (3/24)	差異 Diff.	上期 1st H	下期 2nd H	FY 2021
機能材料 Engineered Materials	1	1	2	1	1	2	4	0	-0	-0	0	1	1	1	1	0	1	1	1
金属 Metals	2	-8	-6	-4	-9	-13	-19	-22	-5	-28	-5	3	-2	-29	-34	5	-6	-5	-10
自動車部品 Automotive Parts & Components	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連 Affiliate Coordination	0	-1	-1	1	1	2	1	-2	3	1	3	8	11	11	10	1	2	5	7
その他 Others	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計 Total	3	-8	-5	-2	-7	-10	-14	-24	-3	-27	-2	12	10	-17	-23	7	-3	1	-2

銅 (¢ / lb) Copper	282	277	280	263	267	265	272	256	242	249	296	325	311	280	280		367	350	359
為替 (Yen/\$) Forex	109.9	107.4	108.6	108.8	109.0	108.9	108.8	107.6	106.2	106.9	104.5	105.9	105.2	106.1	105.8		105.0	105.0	105.0

※銅価格は暦年(Q1: 1-3月)で表示

12

次に持分法損益につきましてですが、資料12ページをご覧ください。

・金属セグメントのうち、カセロネスは上期▲25億円、下期▲6億円、2020年度合計で▲31億円になりました。PPC製錬は上期▲2億円、下期+4億円で年間2億円の利益となり、金属セグメントの持分法損益は対前年で10億円悪化し年間▲29億円になりました。



## セグメントの業績(1) 機能材料

Performance by Segment – Engineered Materials



(単位: 億円 100 million yen)

	2020	2019	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	増減 Difference	上2021 Forecast 1st Half	下2021 Forecast 2nd Half
■売上高 Sales	2,078	1,678	399	2,500	422	1,250	1,250
■営業利益 Operating income	265	151	114	245	-20	150	95
■経常利益 Ordinary income	265	134	131	235	-30	145	90
※実力損益 Real Income	256	161	95	231	-25	141	90

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

### 経常利益の増減説明

[FY2019 → FY2020 +131]

薄膜材料在庫要因 +36  
触媒 +44 (貴金属価格差他)  
銅箔 +41 (MicroThin™増販他)

[FY2020 → FY2021 -30]

薄膜材料在庫要因 -5  
R&D -16  
触媒 -11 (為替差益剥落他)

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・電気自動車向けリチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	・各種電子部品 ・ガラス研磨材
触媒	・二輪車・四輪車排ガス浄化用触媒
銅箔	・高密度パッケージ材料 ・プリント配線基板
薄膜材料	・フラットパネルディスプレイ



続きまして、セグメント毎の対前年比についてご説明いたします。  
説明資料の15ページ「セグメントの業績(1)機能材料」をご覧ください。

・貴金属価格が大幅に上昇したことにより、触媒事業における売上高が増加したこと等により売上高は対前年比399億円増収の2,078億円となりました。

・経常利益は、MicroThin™の販売量が約22%増加したこと等により銅箔で41億円の増益、貴金属価格が上昇したこと等により触媒で44億円の増益となりました。また、インジウム価格が上昇したことによる薄膜事業の在庫要因が36億円のプラスとなったこと等により、前年比131億円増の265億円となりました。

## セグメントの業績(2) 金属

Performance by Segment – Metals



(単位: 億円 100 million yen)

	2020	2019	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	増減 Difference	上2021 Forecast 1st Half	下2021 Forecast 2nd Half
■売上高 Sales	1,936	1,611	325	2,050	114	1,000	1,050
■営業利益 Operating income	237	0	237	105	-132	55	50
■経常利益 Ordinary income	228	-15	243	90	-138	45	45
※実力損益 Real income	157	69	88	101	-56	56	45

※実力損益: 経常利益から在庫要因を除いたもの

金属価格・為替の推移 Metal Prices and FOREX 予想

		FY2019	FY2020	FY2021 Forecast
亜鉛 Zn	\$/t	2,405	2,419	2,700
亜鉛 (実効) Zn (Actual)	\$/t	2,449	2,471	2,708
鉛 Pb	\$/t	1,950	1,867	2,000
銅 Cu (暦年表示 Q1:1-3月)	¢/lb	272	280	359
銅 Cu (Q1:4-6月)	¢/lb	266	312	350
為替 US\$	yen/\$	108.7	106.1	105.0
為替 (実効) US\$ (Actual)	yen/\$	108.5	106.4	105.6

2021年度年間損益感応度(経常損益) (億円 100 million yen)  
Sensitivity to ordinary income (for FY2021) フォルオープン 予約含む

		±100\$/t	11.9	7.7
亜鉛(LME) Zn				
鉛(LME) Pb		±100\$/t	2.8	2.8
為替 US\$(yen/\$)		±1yen/\$	5.0	4.5

経常利益増減分析

FY2019 → FY2020 FY2020 → FY2021予想

相場・為替	-6	21
T/C条件(亜鉛)	19	-36
たな卸資産在庫要因	155	-82
持分法損益	-10	19
コークス	12	-10
受取配当金	20	-23
その他 ※	53	-27
合計	243	-138

※その他の内訳

- [ 'FY2019 → 'FY2020 +53 ]  
 ・ 日比製錬取込み +34、八戸製錬大定修 -14、  
 PGMリサイクル +24、エネルギーコスト増 +12  
 [ 'FY2020 → 'FY2021 -27 ]  
 ・ 八戸製錬大定修 +14、PGMリサイクル -24  
 日比製錬 -7、エネルギーコスト増 -5

続きまして金属事業セグメントです。資料16ページをご覧ください

・銅事業再編により昨年度は計上されていなかった銅製錬関係の売上が2020年度から計上されたこと等により、売上高は前年比325億円増収の1,936億円となりました。

・経常利益は、LME価格が上昇したことによる在庫要因によるプラス効果が71億円ございました。前年度は逆にLME価格下落によるマイナス効果84億円が含まれておりましたので、在庫要因による影響が前年比、合わせてプラスの155億円ございます。また原料の調達条件(T/C)が改善したことによる増益19億円や受取配当金20億円、さらにその他に含まれています、PGMリサイクルの影響24億円などのプラス効果により、前年比243億円増益の228億円となりました。

### セグメントの業績(3) 自動車部品

Performance by Segment – Automotive Parts & Components



(単位: 億円 100 million yen)

	2020	2019	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	増減 Difference	上2021 Forecast 1st Half	下2021 Forecast 2nd Half
■売上高 Sales	811	906	-95	860	49	430	430
■営業利益 Operating income	14	1	13	20	6	5	15
■経常利益 Ordinary income	19	5	14	20	1	5	15

[三井金属アクト]	(主な用途)
自動車部品 	・自動車用ドアロック

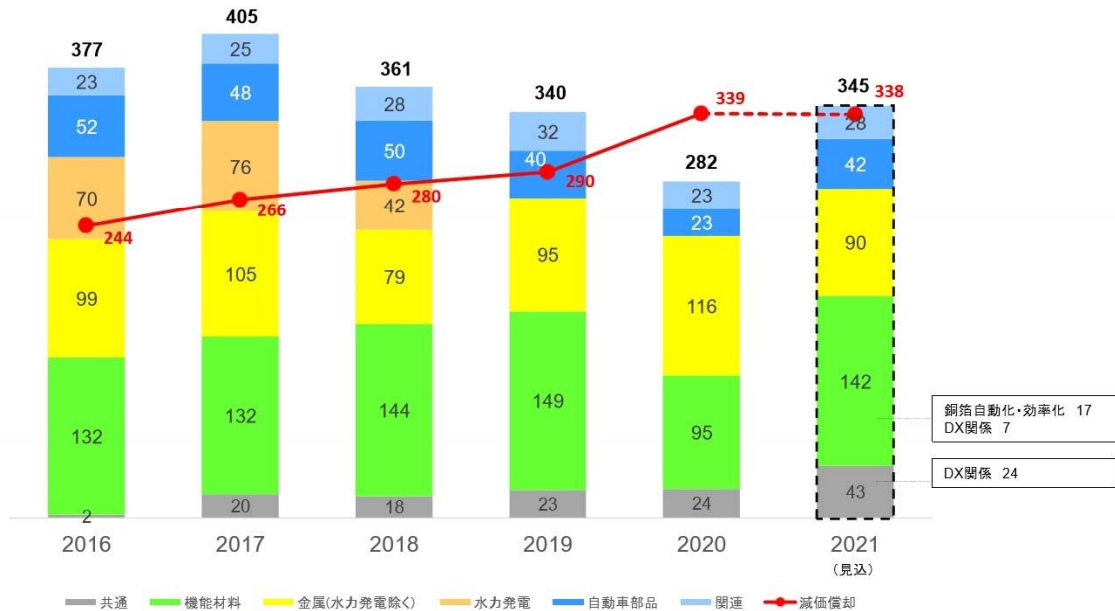
経常利益増減分析	FY2019 →FY2020	FY2020 →FY2021予想
増減販	-27	19
コスト削減	33	7
その他※	8	-25
合計	14	1

※その他の内訳  
 [FY2019→FY2020 +8]  
 ・一時帰休助成金他 +7  
 [FY2020→FY2021 -25]  
 ・鋼材・樹脂価格上昇 -10、  
 ・一時帰休助成金他 -7、為替差 -3

続きまして自動車部品セグメントです。資料17ページをご覧ください。

・新型コロナウイルスの影響により、Q1はサイドドアラッチの販売数量が前年同期比約4割減少するなど、厳しいスタートとなりました。下期は前年同期比約2割の増販と持ち直しましたが、年間では前年の数量には届かず、当セグメントの売上高は、前年比95億円減の811億円となりましたが、経常利益はコストダウンを加速した効果が貢献し前年比14億円増益の19億円となりました。

(単位: 億円 100 million yen)



設備投資と減価償却につきまして19ページをご覧ください。

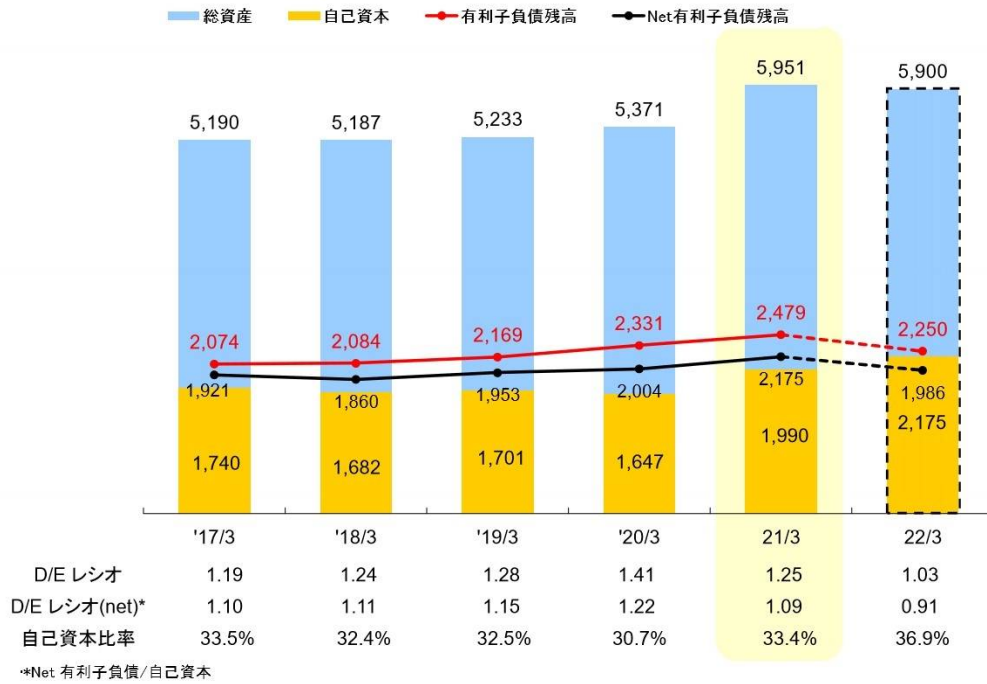
・設備投資は、新型コロナウイルス感染症による影響が見通せなかったこともあり、年間で、減価償却費339億円を大きく下回る282億円といたしました。

・2021年度の設備投資額は、345億円と2020年度より増加させる計画です。DX関係の投資を機能材料セグメントおよび全社共通部門で合わせて31億円織り込んだほか、銅箔事業における自動化や効率化のための投資など、将来に向けて今打っておかなくてはならない打ち手についてはしっかり投資していくこととしております。

財政状態  
Financial Position at Term End



(単位: 億円 100 million yen)



資料20ページをご覧ください。財政状態です。

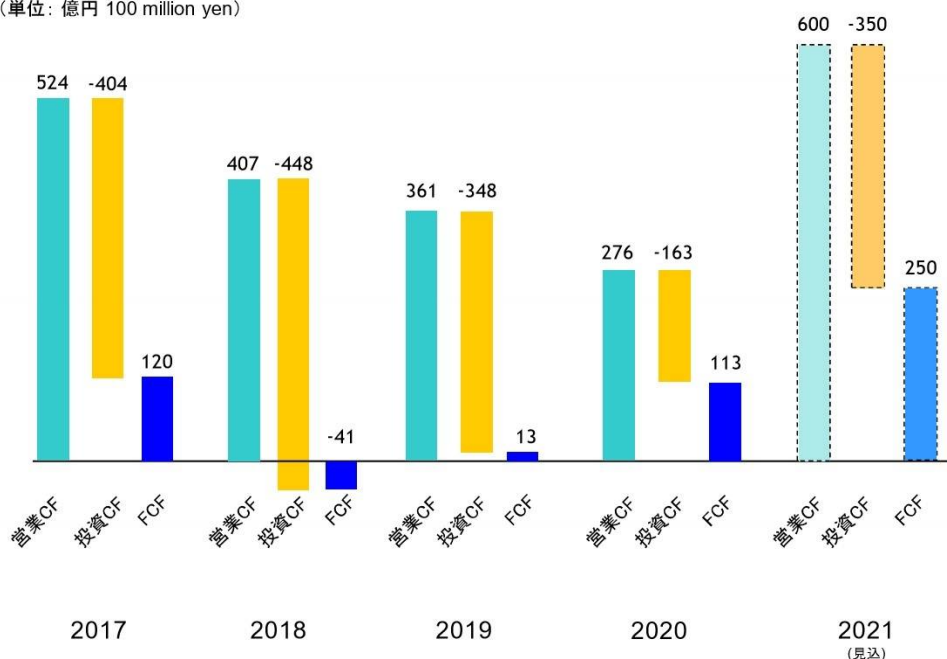
・総資産については、貴金属価格の上昇などにより、流動資産が増えたことで、大幅に増加し、それに伴い有利子負債も幾分増加しましたが、自己資本については、2020年3月末比べ343億円増加いたしました。結果、自己資本比率は33.4%となりました。

・また2022年3月末の自己資本比率は36.9%と予想しております。

## キャッシュフロー Cash Flows



(単位: 億円 100 million yen)



21

21ページのキャッシュフローに示したように2021年度は250億円のキャッシュフローを創出できるように努めてまいります。

### ■ 質疑応答

#### 【機能材料セグメント】

- Q. 21年度の業績予想について、機能材料の利益の出方が弱いとの印象を受けるが、それぞれの製品の収益の動向、販売量が増えていくが利益がそこまで伸びない背景の2点について教えてください。
- A. 二輪触媒の販売数量は21年度が20年度を上回っている。これは20年にCOVID-19の影響があり、そこから回復はしているが、回復のペースが少し鈍くなっている。四輪触媒の販売数量は想定通り伸びているが、二輪、四輪ともに開発費などのコスト面の増加を織り込んでおり、利益の伸びは小幅にとどまっている。銅箔については、MicroThin™、特にPKG向けのMicroThin™がスマホ向け、非スマホ向けともに好調を持続すると見込んでいる。電解銅箔の数量についても通信インフラ向けを中心に伸びていくと見ているが、利益については開発費の増加、エネルギーコストの増加、20年度の反動で販管費が増えるなどのコストの増加を見込んでおり、小幅の増加にとどまると見ている。
- Q. 20年度のMicroThin™について、2月9日の決算説明の際の計画との比較で特にPKG向けのところが上回っているので、この背景について教えてください。
- A. 2月9日の時点ではスマホ向けが旧正月の影響もありQ4で一段落すると見ていたが、結果的には好調が続いた。非スマホ向けについてもQ4で伸びると見ていたのが、想定通り伸びたため、PKG向けは2月9日の見込みより増えた。

## 主要製品の動向 Trends of products



		2019					2020					2021予想(5/11)					
		Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	通期予想 (3/24)	上期	下期	通期		
機能材料	MH合金 MH alloy	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	103	106	110	105	76	102	104	111	98	98	95	122	109
	二輪触媒 Catalysts for 2W	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	103	104	109	104	49	128	128	121	107	107	113	114	113
	インド向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(102)	(94)	(123)	(105)	(40)	(176)	(164)	(143)	(131)	(131)	(141)	(142)	(141)
	インドネシア向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(110)	(119)	(116)	(111)	(40)	(71)	(65)	(98)	(68)	(69)	(80)	(87)	(83)
	その他地域向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(102)	(112)	(88)	(101)	(63)	(88)	(105)	(101)	(89)	(90)	(88)	(88)	(88)
	四輪触媒 Catalysts for 4W	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	104	98	102	101	61	123	130	117	108	107	126	130	128
	銅箔 Copper foil	販売量 Volume of sales	千円 1千円	2,320	2,520	2,530	2,250	2,400	1,860	1,960	1,780	2,460	2,010	2,000	2,070	2,020	2,040
	MicroThin™ (a) + (b)	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	139	121	116	119	142	153	149	135	145	146	168	151	159
	HDI向け MicroThin™ (c)	販売量 Volume of sales	指数 Index	(24)	(34)	(18)	(16)	(23)	(20)	(49)	(40)	(13)	(31)	(31)	(34)	(27)	(30)
	PKG向け MicroThin™ (b)	販売量 Volume of sales	指数 Index	(76)	(105)	(103)	(100)	(96)	(122)	(104)	(109)	(122)	(114)	(115)	(134)	(124)	(129)
ITO	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	111	112	109	108	103	91	107	95	99	99	99	99	82	91
金属	亜鉛 Zinc	生産量 Volume of production	千t	56	56	56	52	219	43	56	58	58	215	218	109	115	224
自動車部品	サイドドア ラッチ Side door Latches	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	99	97	82	95	59	96	112	102	93	—	—	—	—
	日本向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(105)	(98)	(118)	(106)	(65)	(108)	(124)	(112)	(102)	—	—	—	—
	中国向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(101)	(109)	(43)	(89)	(102)	(109)	(124)	(102)	(109)	—	—	—	—
	その他アジア向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(99)	(93)	(86)	(95)	(25)	(70)	(93)	(95)	(70)	—	—	—	—
	欧米向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(92)	(89)	(86)	(92)	(31)	(87)	(100)	(97)	(79)	—	—	—	—

指数：2019年Q1を100として表示

- Q. 21年度の予想について、決算説明資料P13において上期のPKG向けの指数が相当伸びているので、ここまで増えてくると上尾で製造し切れないのではと思うが、PKG向け全てを上尾で製造するのか、それともマレーシアに生産移管を進めて、マレーシアの稼働率を上げていくのかについて教えて下さい。
- A. 上尾においては高稼働の状況が続いているため、計画的にマレーシアに生産移管していく予定にしており、マレーシアの稼働を上げていく。
- Q. 上期のIndexが134とQ4から比べてもかなり数量を増やす計画になっているが、ここが伸びる背景をもう少し教えて下さい。
- A. スマホ向け、非スマホ向け両方で伸びるとみており、通期では10%以上伸びる見込み。スマホ向けは5Gモデルで1台当たりのMicroThin™採用量が増えることが予想され、非スマホ向けもサーバーのメモリ用途が引き続き牽引していくという大きな流れは変わらないが、経験則から季節要因として上期の方が受注が多い傾向にあるため、上期を大きくしている。
- Q. HDI向けのMicroThin™について、20年度において数量が増えた背景について整理していただけないでしょうか。基板の面積が増えるという話もあったかと思いますが、スマホの数量などいろいろあると思いますので、背景を教えてください。一方で、21年度はあまり増えない見通しになっていますが、これはどのような見方をされているのか併せて教えてください。
- A. 20年度が増えた理由は、まずは基板の面積が20%程大きくなったこと、および北米系のスマホ自体が非常に売れたことがあげられる。21年度については、今のところ前年度並みと見ている。特に基板の面積が小さくなる話や採用層数に変化があるという話はなく、スマホ販売面においても引き続き5Gスマホが増えることから、昨年並みに売れるとみている。
- Q. HDI向けはまだ北米系がメインで、韓国系や中華系は特に進捗がないということでしょうか。
- A. 韓国系に一部採用されているが、それ以外の新規の採用拡大については進展していない。

Q. MicroThin™について半導体不足の影響がQ1に出るという心配をしなくてよいのか確認させて下さい。

A. 今のところ半導体不足の影響は見えてない。Q1についても今のところは強い需要が引き続き続くと見ている。

Q. 電解銅箔がQ4に2,460t/月と大きく増えた要因と、それに比べると21年度がおとなしくなる背景について教えて下さい。

A. 一番のQ4増加要因は通信インフラ向けの銅箔が増えたこと。20年度Q2から在庫調整が始まりQ3でかなり落ち込んだが、Q4に入り通信インフラ向けが急回復した。加えてフレキ向けもQ3からQ4にかけて増えたこともあり、電解銅箔はQ4で大きく増えた。21年度については、通信インフラ向けは引き続き高い水準をキープすると見ており、フレキ向けも通期で微増と見ている。電解銅箔については、キャパを増やさずに通信インフラ向けやフレキ向けの比率をいかに高めていくか、製品Mixを変えていくかという方向で取り組んでおり、全体の数量は減少するが、減少分は通信インフラ向けやフレキ向け以外のものであり、収益にはそこまで大きなインパクトは無いと見ている。

Q. 銅の価格が高騰しているにもかかわらずMicroThin™といった重量ベースで販売していない製品は、あまり銅価連動していなかったと思うが、銅価高騰の影響はないか。

A. 影響がまったくないわけではないが、限定的と考えてもらって構わない。

Q. HRDP®について、今年から出荷が一部始まり、今後毎年出荷先が増えていく見通しだったと思うが、見通しについてのアップデートをお願いします。

A. 今のところ、新しい情報はない。順調にいけば、今年度中に新しいお客様と取引できる可能性があるという状況。

Q. 1月から出荷開始と説明されていたかと思うが、特に年度ベースで後半に向けて増えていくような形ではなく、まずは初期ロットで出荷を開始されたということで大きな変化は無いというお話でよろしいでしょうか。

A. そのようなご理解で正しい。

#### 【金属セグメント】

Q. 買鉱条件の悪化で36億円という大きな数字が入っているが、今のマージンの状況と今後の鉱石需給に対する考え方について今の見方があれば教えて下さい。今後さらにしばらくマージンの悪化が続く見方なのか、改善の見込みがあるかについて教えて下さい。

A. 足元T/Cが低迷している。鉱山側でCOVID-19の影響から操業が元に戻っていないことは容易に想像でき、鉱石需給がこれ以上緩くなることは考えにくい。そのためしばらくはスポットT/Cが製錬側にとって低い状況が続くのではと見ている。

#### 【自動車部品セグメント】

Q. 自動車部品について、21年度に鋼材や樹脂価格の上昇でマイナス10億円の影響を見られています。足元、鋼材の価格がかなり上昇していますが、ここで想定している以上にマイナスが大きくなる可能性はありますか。

A. 21年度予想について足元の高い価格で想定しているため、マイナス影響が大きくなることは今のところ想定していない。

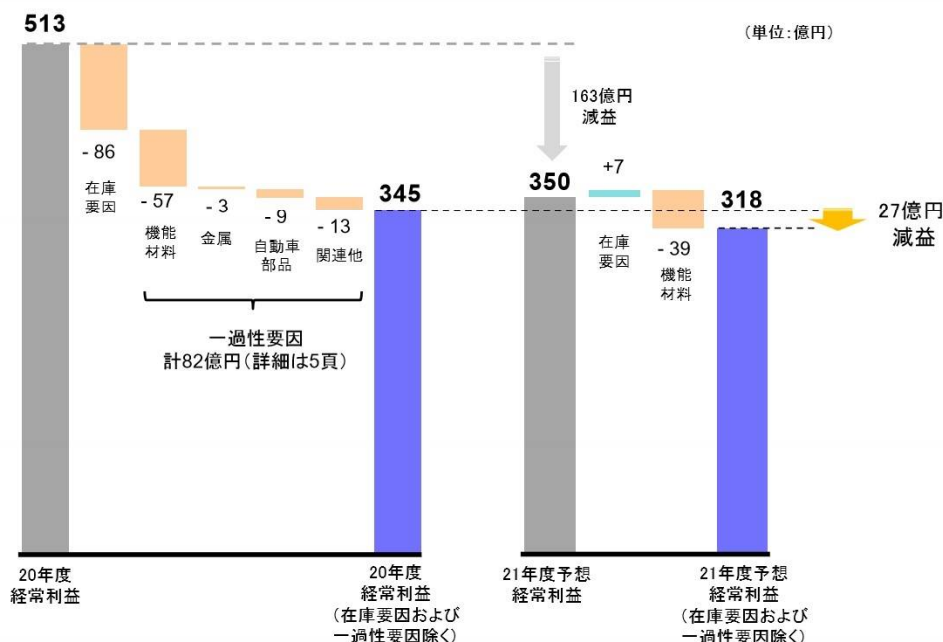


## 在庫要因および一過性要因除く経常利益

Ordinary Income Forecast excluding inventory factors and transient factors



21年度予想経常利益は対前年度163億円の減益だが、在庫要因および一過性要因を除くと27億円の減益



3

Q. 3月24日の業績予想修正発表の際に290億円が実力損益と聞いていたが、345億円や318億円はこれと同じ定義と理解してよいか。

A. 3月24日と同じ定義としている。

Q. 決算説明資料P3で在庫要因と一過性要因を除いた経常利益を示されており、在庫要因と機能材料の数字が大きな金額になっていますが、具体的にはそれぞれどのようなことを指すのでしょうか。

A. 在庫要因は決算説明資料P14に記載のとおり。在庫要因とは金属価格が上昇すると、結果として安い在庫が払い出される影響によるもの。金属価格が上昇すれば有利になり、金属価格が下落すれば高い在庫が払い出されるので不利になる。機能材料の57億円についてはP5に内訳を記載しており、主に貴金属価格の影響が大きく、貴金属価格の上昇で仕入価格と販売価格の値差により一時的な利益が大きく出た。

Q. 設備投資で銅箔の自動化・効率化やDX関係を増やすとのことだが、開示できる範囲でもう少し具体的に説明いただけないでしょうか。

A. 21年度に含まれるDX関係の内、共通の24億円については、2019年から共通システムの更新を進めており、その投資が本格的に始まるというもの。共通プラットフォームを更新し、来るべきDXの変革に備える。機能材料の7億円については、主に機能材料で、例えば管理システムや情報収集等のシステムを新たに組み入れるというもの。こちらも全社基盤のプラットフォームの変更と共に、機能材料とタイアップして全社で進めている。

以上